



うまべえ

野火止用水コース 定番コース①B

2 青梅橋跡

野火止用水の青梅街道に架かっていた橋です。



右は庚申塔とその祠です。左の石柱は橋の橋柱で「阿を免はし」と彫られています。水道原水を流すため暗渠となり、橋柱だけが残り、青梅橋の名も交差点名で残りました。

3 瘡守稲荷

青梅橋の北岸にお稲荷さんがありました



江戸時代から、瘡守稲荷（かさもりいなり）と呼ばれて、瘡瘡（ほうそう）は言うまでもなく、どんな病にも靈験がある

とのことで、遠くからもお参りに来ました。今は小平市側にあります。

4_1 小川用水

明暦2年（1656）の小川村開発にあたり、村の飲み水を確保するため、開発名主である小川九郎兵衛が私財を投じ開削しました。



水路は青梅街道に沿って建ち並ぶ村屋敷内の北側と南側を流れ、明治時代まで各家の生活用水として使われていました。

4_2 小川用水の分水地

立川通りから青梅街道に流れを変えた小川用水は、この地点で分水し青梅街道の南側と北側両方の各家を流れます。



5 用水工夫

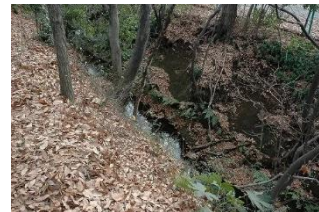
野火止橋のたもにブロンズ像があります、「用水工夫」のモニュメント（東大和市）です。



堀具を振り上げて、野火止用水の開削工事にちなんで置かれています。この工夫、工事の時はどこから来たのでしょうか？我がまちの先祖？川越の人？知りたいです。

6 野火止用水

野火止用水は承応四年（1655）、徳川幕府の老中松平伊豆守信綱によってつくられ、小川村の分岐点から新河岸川まで六里（約24キロメートル）を四十日間で掘り通したといわれる用水路です。



田、畑がうるおい、米の取れ高は十倍にもなったそうです。

7 ホタルの里

東大和市のホタルの里づくり事業



は、平成4年度にホタルの幼虫を600匹譲り受け、市役所で試験的に飼育を実施したところから始まります。翌年度、野火止用水清流が復活したこと、市民から要望があったことを受け、野火止用水にてホタルの里づくり事業が本格的に開始されました。

8 上水線軌道跡

「廃線跡」を歩くのが流行っています。



地上にあった上水線「青梅橋」駅とその前後の線路が、高架化によって廃線となったところはどこか、意外と残っています。

30分もすれば歩ける範囲です。まず「改札口・出札口」があったところは、スケートセンターの入り口、地元農家の野菜市がたつあたりです。

東やまと観光ガイドの会

URL <https://higashiyamoto.net/kanko/>





うまべえ

野火止用水コース 定番コース①B

2 青梅橋跡

3 瘡守稲荷

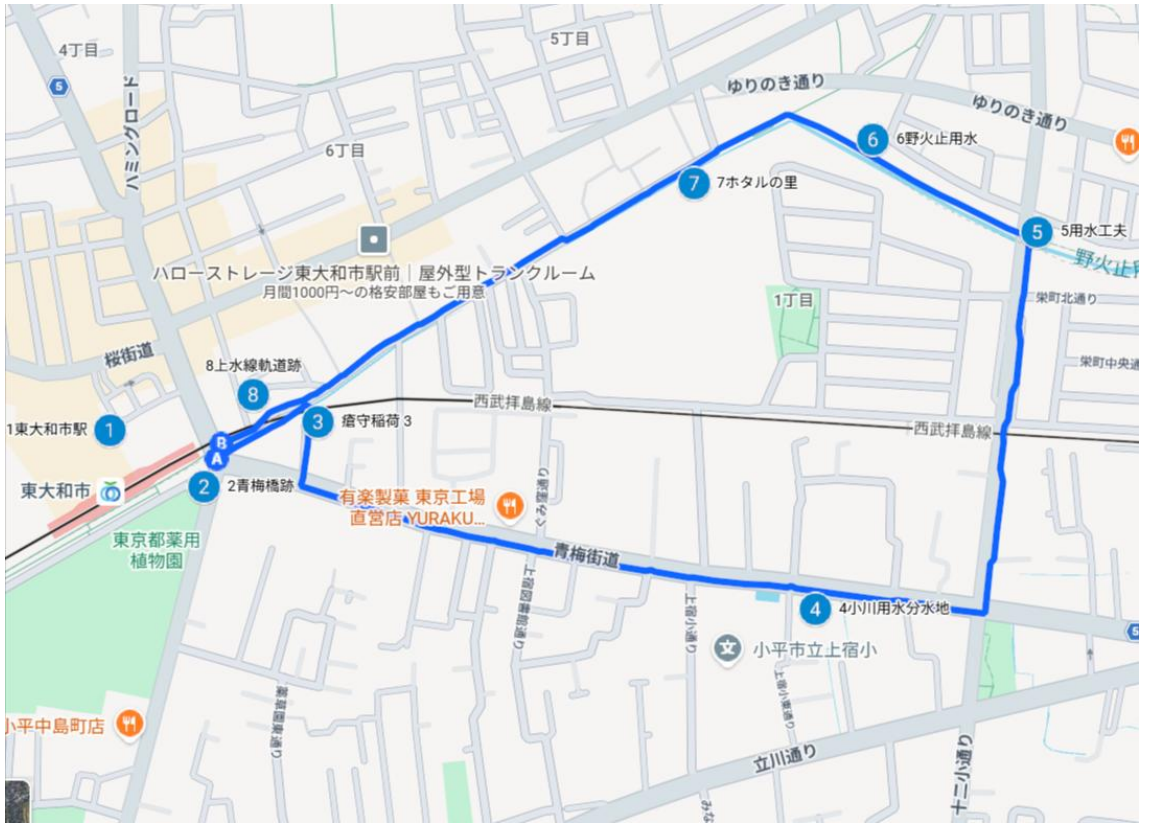
4 小川用水

5 用水工夫

6 野火止用水

7 ホタルの里

8 上水線軌道跡



野火止用水コース

2 青梅橋跡

3 瘡守稲荷

4 小川用水

5 用水工夫



6 野火止用水

7 ホタルの里

8 上水線軌道跡

